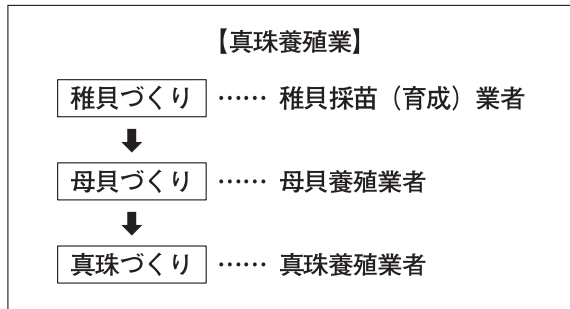


3. 愛媛の真珠養殖について

真珠養殖は、稚貝業者が人工採苗（現在、ほぼ100%この方法で行う）か天然採苗で稚貝を作り、それを母貝業者が核入れできる大きさにまで育て、それに真珠業者が核入れをして1年ほどで真珠ができる。今回、その3業者にヒアリングをして、稚貝作りから真珠ができるまでを作業スケジュールに沿ってまとめた。



(1) 稚貝採苗（育成）業者

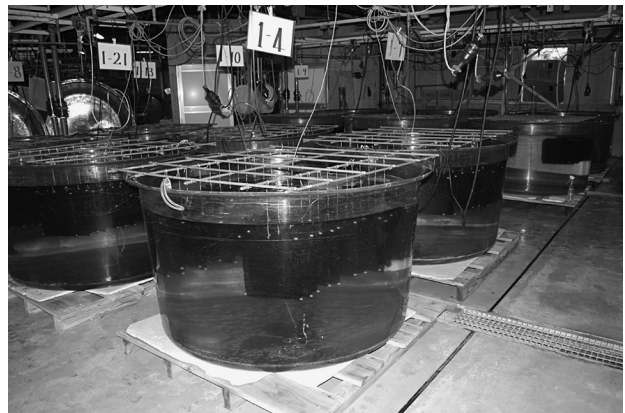
①人工採苗

人工ふ化に使う貝の多くは中国貝やベトナム貝のオス、メスを現地まで採りに行き、それに国産貝とペルシャ貝のオス、メスとを掛合わせたハーフ貝だが、これらの貝を使って2月から5月に毎月1回のふ化作業を行っている。その方法は1トン水槽（1度に30万貝をふ化できる）を使って、まず水槽内を貝が自然に放卵する6月から7月の水温にして、その中で受精させ、その後は貝にエサ（植物性プランクトン）を与えると、受精後40日くらいで母貝業者に出荷できるくらいの大きさにまで稚貝は成長する。この頃は、まだ貝と分からないくらいの大きさだが、それを30cm角の付着器に1万貝を目標に付着させ（実際には1万貝以上が付着している）、そのまま母貝業者に出荷する。

下灘漁協真珠貝研究所（人工ふ化を行っている様子）



稚貝のエサを培養



1 t タンクで稚貝を育成



付着器に付いた稚貝



稚貝にエサを与える